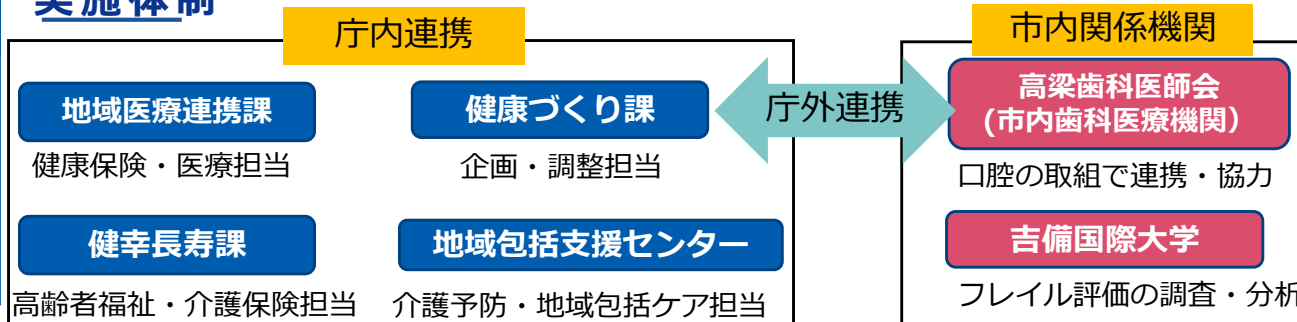


岡山県 高梁市 ―オーラルフレイル予防に重点を置いた一体的実施の取組―

市の概況(令和5年4月1日時点)

人口	27,358人
高齢化率	42.58%
後期被保険者数	6,867人
日常生活圏域数	7圏域

実施体制



高梁市健康づくりイメージキャラクター まつ姫

取組の経緯

庁内で医療、介護、保健及び福祉の関係課が集まり地域全体で高齢者を支える仕組みや高齢者自身の自立等について本市の課題を共有した。これをもとに、「健康寿命の延伸」と「後期高齢者医療を持続可能な仕組みとするための医療費の適正化」を目標として、庁内関係課、地域の関係機関、団体と連携して高齢者の健康管理や介護予防を一体的に実施していくための体制を構築した。令和2年度に健康状態が不明の高齢者を訪問し、口腔機能に課題がある高齢者が多いことを把握した。高額セプト発生疾患は「誤嚥性肺炎」が上位を占めていることから、令和4年度から歯科医師会と連携し、重点的にオーラルフレイルの取組を推進している。

企画調整・関係機関との連携

- **庁内連携**
健康づくり課、健幸長寿課、地域医療連携課及び地域包括支援センターが目的や課題を共有し役割分担をしている。
- **大学との連携**
市内の吉備国際大学と連携して、地域の通いの場に出向き、体力測定を実施し、フレイル評価の調査と分析を行っている。
- **歯科医師会との連携**
高梁歯科医師会と令和3年度から口腔の取組に向けて相談を開始。オーラルフレイル予防事業で市内の歯科医療機関と連携し診療情報を参考に保健師が口腔ケアの指導を行っている。

ポピュレーションアプローチ

- **健康教育・健康相談(口腔)**
地区担当保健師と歯科衛生士が市内で口腔機能に重点を置いた健康教育をグループごとに2回実施。対象は自宅や公民館などで自主的に口コモ予防体操を実施している体操グループと、65歳以上の虚弱な高齢者を対象としたミニデイサービス。
1回目：集団チェック
後期高齢者の質問票と口腔機能チェックシートと咀嚼力判定チェックを行い、オーラルフレイルをテーマに健康教育・健康相談を実施。
また、唾液腺マッサージやパタカラ体操を実践し、通いの場や自宅で定期的な取組を指導している。
チェックシートでハイリスク判定された方に対しては保健師が個別訪問しハイリスクアプローチへ繋げている。
2回目(6か月後)：アフターフォロー
1回目と同じチェックシート等を使い、口腔体操等日々の取組の成果を個々に確認してもらう。併せて、フレイル予防、生活習慣病予防について啓発を行う。

ハイリスクアプローチ

- **健康状態不明者対策**
地区担当保健師が75歳以上で1年以上健診、医療、介護及び福祉の利用がない人を抽出し、後期高齢者の質問票と口腔機能チェックシート・咀嚼力判定チェックを行い、健康状態等を把握する。必要に応じて健診、医療機関の受診勧奨を行う。
- **口腔**
通いの場の健康教育または健康状態が不明な高齢者への訪問でオーラルフレイルハイリスクと判定された人に対し、地区担当保健師が全数状況を把握し、初回と6か月後の2回、訪問指導を実施。
初回訪問時
生活状況を把握し、口腔機能体操等必要に応じた保健指導を実施する。
歯科受診が必要な人に対しては、情報提供書「高齢者口腔機能状況」を発行し、本人が受診した歯科医療機関から「オーラルフレイル予防医療連絡票」を返信してもらう。
2回目訪問時
歯科受診状況を確認し、再度、後期高齢者の質問票と口腔機能チェックシートと咀嚼力判定チェックを行い、評価する。

岡山県 高梁市

事業結果と評価概要（令和５年度結果）

	取組	対象者数	参加者数	評価指標	状況（評価結果）
ハイリスクアプローチ	健康状態不明者対策	抽出人数 101人	介入人数 97人	①健診を受診した人数 ②医療(医科・歯科)・介護サービスにつながった人数 ③口腔機能チェックシート・後期高齢者の質問票の改善状況	①介入後健診受診 6人(6.2%) ②介入後医療機関を受診(歯科以外)19人(19.6%) 介入後歯科医療機関を受診 15人(15.5%) 介入後介護サービスへつながった 15人(15.5%) ③全体的な評価 維持：44人(45.4%) 改善：21人(21.6%) 悪化:11人(11.3%)
	口腔	ハイリスク者 59人	59人	①歯科受診した人数 ②口腔機能チェックシートよりオーラルフレイルリスク者の変化 ③要介護認定の状況	口腔ハイリスク者59人に訪問または面談 ①歯科受診 新規4人、継続受診23人 合計27人 ②口腔機能チェックの各項目で改善が見られた。 ③要介護認定者 1名（R6.3末時点）
ポピュレーションアプローチ	健康教育・健康相談	通いの場での実施回数 29回	参加者 (延べ) 714人	①参加者数・率 ②ハイリスクアプローチにつないだ人数 ③口腔機能チェックシート・後期高齢者の質問票の改善状況 ④口腔機能向上への体操・マッサージ等の定例実施状況と個人実践状況 ⑤フレイル該当者数	①参加者数：実390人、延べ714人 参加率5.7% ②ハイリスクアプローチにつないだ人 59人 ③口腔機能チェックシート・咀嚼力等の改善者の割合は各項目で改善の必要性がある。 ④パタカラ体操実施者、唾液腺マッサージ実施状況 共に増加している。 ⑤フレイル該当者 61人（16%） プレフレイル該当者 227人（59%）

【自由記載欄】

地域包括支援センターが実施する生活支援体制整備事業の一環で毎年1～2回ほど地区の課題を話し合う地区ミーティングが開催されており、市の保健師が参加している。地区ミーティングでは、地域の健康課題や生活支援に関する課題、ニーズを共有しサービスや仕組みづくりにつなげている。

課題・今後の展望

- ・事業実施を通じて、保健師が地域の高齢者の生活実態を把握する機会となり、ケース支援を通じ、医療・介護・福祉各分野の制度理解につながり、関係機関と連携を取りやすくなったことは一体的実施の一つの成果と考えている。市の取組の特長であるきめ細やかな対応を維持しつつ、関係各課や医療機関等と連携して事業を継続していく予定である。
- ・K D Bによる分析、データヘルス計画による分析結果から、フレイル予防に加え生活習慣病重症化予防の取組について、国保から後期高齢へ途切れることなく継続的に実施できる体制を整える必要がある。